

2017年8月2日

PM_{2.5}・Oxの発生源寄与解析に向けて
～モデル・観測・インベントリの現状と課題整理～
講演会のお知らせ

大気汚染の対策検討を行ううえで、発生源寄与度は重要な基礎資料となります。発生源寄与解析は、いわゆるフォワードモデル（またはソース・オリエンテッドモデル）を用いたゼロアウト法が主流ですが、最近ではトレーサ法も活用され始めています。一方で、CMBやPMFといったレセプタモデルによる解析もよく行われています。そして、これらを実際に運用するには、問題に適した排出インベントリと大気観測データを準備しておく必要があります。

現在、PM_{2.5}や光化学オキシダントの対策が検討されており、今後これら二次汚染物質の発生源寄与解析が必要になってきます。このチャレンジングな課題を控えた今、モデル、インベントリ、観測の各分野に精通した先生方にこれまでの取り組みをご紹介いただき、現状と課題を整理する機会が必要と考え、下記のとおり講演会を企画しました。みなさま万障お繰り合わせのうえ、ご参加ください。

記

主 催： 大気環境学会都市大気環境モデリング分科会（代表：神戸大学 山地一代）

環境研究総合推進費 5-1601「大気中の二次汚染物質に対する発生源寄与推計と対策立案に資する規範的モデルの確立」（研究代表者：国立環境研究所 茶谷聡）

日 時： 2017年9月22日（金）15:00～17:00（14:30 受付開始）

会 場： 大手町ファーストスクエアカンファレンス Room C（東京駅丸の内北口から徒歩4分）

<http://www.1ofsc.jp/>

演者／分野：

- 1) 茶谷 聡 氏（国立環境研究所）／排出インベントリ
- 2) 飯島明宏 氏（高崎経済大学）／レセプタモデル
- 3) 板橋秀一 氏（電力中央研究所）／フォワードモデル
- 4) 兼保直樹 氏（産業技術総合研究所）／大気観測

費 用： 参加費無料（資料代1,000円）

定 員： 60名（大気環境学会員以外もご参加いただけます）

〆 切： 2017年9月15日（定員に達した時点で〆切としますので、お早めをお願いします）

<参加申込み・お問い合わせ先>

電力中央研究所 速水 洋（haya@criepi.denken.or.jp）

*メールでお願いします。

以上